

## 平成 29 年度第 6 回伊勢市総合計画審議会 議事要録

- ◆日時 平成 30 年 1 月 23 日（火）19：00～21：00
- ◆会場 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 4 階 大会議室
- ◆出席委員  
山本 誠委員、森 裕美委員、美濃 松謙委員、竜田 和代委員、永井 正高委員、  
山本 康史委員、酒徳 雅明委員、西村 幸泰委員、新田 均委員、重松 玲委員
- ◆欠席委員  
池田ミチ子委員、岩崎 良文委員、西村 純一委員、浅野 聡委員、三村 和也委員
- ◆出席職員  
情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局参事、同企画調整課課長補佐、同課主査 2 名】  
環境生活部【環境生活部長、環境生活部参事、環境課長、清掃課長】  
教育委員会【教育事務部長、学校教育部長、教育総務課長、学校統合推進室長、  
学校教育課長、学校教育課副参事、社会教育課長、スポーツ課長、  
文化振興課長】  
健康福祉部【健康福祉部長】  
経営推進部【経営推進部長】  
危機管理部【危機管理部長、危機管理課長】  
消防本部【消防長、消防次長、総務課長、消防課長、予防課長】  
産業観光部【産業観光部長、産業観光部理事】  
都市整備部【都市整備部次長、交通政策課長】  
総務部【総務部長】
- ◆内容  
(1) 前回の振り返り  
(2) 序論～基本構想（案）の修正について  
(3) 第 3 次総合計画・前期基本計画（案）について

### ◇会議録（要録）

以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておきませんので、ご了承ください。

### ○序論～基本構想（案）の修正について

⇒事務局（案）了承

## ○第3次総合計画・前期基本計画（案）について

### ●序章

- ・【5 ページ】序章では、今までの意見を受けて、7つのまちづくりの主要な課題を各施策を横断する課題として捉えるのであれば、「2 前期基本計画の取組方針」の中で「7つの主要課題を心にとどめ」の部分で、「7つの主要課題の解決のために」と改めてほしい。 ⇒修正する。
- ・7つの課題の解決のために、記載のある「関係する施策」で展開するという点でよいか。 ⇒そのとおりです。
- ・【6 ページ、7 ページ】「⑤選ばれるまちづくり」の主な取組に「教育の充実」とあるが、ここで指すのは「地域教育」もしくは「郷土教育」ではないのか。また「⑦有形・無形の歴史的・文化的資産の継承と活用」の主な取組の「歴史文化の教育・啓発」は基本構想を受けて「伊勢の歴史文化の教育・啓発」ではないのか。  
⇒前者については、転入される方への「教育の環境の充実」といった面も含んでいるので、併記するなど整理をしたい。

### ●分野別計画

#### 全体

- ・現況を見ると、7つのまちづくりの主要な課題について、あまり触れられていない。複数に渡っているところは、関係部署とすり合わせ、認識をもってもらうべき。  
⇒見ていただくことを意識し、節ごとに見開きページで記載をしているため、ボリューム的に書ききれない部分を、横断的な課題として序章を整理した。
- ・7つのまちづくりの主要な課題に関連した記載が薄いならまだ良いが、記載が全く無いのは、「取り組まない」と言っているに等しい。
- ・意識付けのために、推進するうえで計画する事業計画等に、関連する「まちづくりの主要な課題」を記載してほしい。
- ・各節の見出しに、どのような「まちづくりの主要な課題」とつながっているかを記載してほしい。
- ・数値指標において、例えば「第1章第3節 人権尊重・男女共同参画」の「日常生活の中で人権が侵害されていると感じたことがある人の割合」とか、「第4章第2節 地域福祉」の「暮らしの中で困りごとがあったときに相談するところがない人の割合」などネガティブなことを減らすことを目的とした指標があるが、ゼロで無ければ、ネガティブ要因を容認した形になるので、同じ意図でもポジティブな記載になるよう工夫してほしい。

- ・総合計画でやろうとしている中身が子どもたちにわかるような取組を進め、どの程度浸透しているかを測ってほしい。
- ・「本市」「当市」「市」など言葉の表現を統一した方が良い。

## 第1章

- ・【第1節】現況に自治会加入率の記載があるが、自治会加入率は、地域活性化を推し量るものではなく、人口減少の中では今後好転しない。地域の活性化を図るためには、何をやらなければいけないかを強調して書く必要がある。  
⇒この部分は、現況としてコミュニティの核となっている自治会の状況を記載した。自治会の加入率の低下は、組織力の低下につながり、コミュニティの活動が小さくなっていくことから記載した。
- ・【第1節】課題解決の方向性「11A」で「まちづくり協議会の活動を市民に周知する」とあるが、広報紙以外にどのようなものを考えているか？人が集まるような公民館などの施設でもPRされたら良い。  
⇒市のホームページの他、各まちづくり協議会にて独自でHPを作成されているので、それらHPの紹介をしていきたい。また市広報紙で定期的な啓発に取り組みたい。
- ・【第2節】「ボランティアの派遣を行い」という言葉があるが、自主的にするものに「派遣」という表現はふさわしくない。マッチングという表現ではないか。  
⇒そのとおりであり、「仲介」や「マッチング」などの表現に修正する。
- ・【第4節】道路のサイン等について多言語化されていくような取組は「14A」の課題解決の方向性に入っているという認識でよいか。  
⇒まず、この節で示す「多文化共生」については、今、伊勢に暮らす外国人への生活の部分で取り組み、訪問される外国人へ広がりを見せていきたい。「国際交流」については、まず市民の方に触れていただくような取組を進めたい。
- ・【第1節】平成27年4月に市の全小学校区でまちづくり協議会が設立され、できた歴史に長短があり、難しい部分もあるが、まちづくり協議会が自主的に活動できるまでのバックアップを、課題解決の方向性の「11B」に踏まえて欲しい。
- ・【第3節】重点課題を見ると、啓発事業への若年層参加者の割合を上げることに取り組むとあるが、参加率は低いかもしれないが、若者の認識が低いわけではないので、違和感がある。  
⇒若い世代ほど、人権教育により人権意識が高く、そのような世代が人権を侵害されていると感じないような世の中にしたいということで挙げさせていただいた。

- ・【第3節】若い世代にターゲットを絞るとあるが、年齢の高い人でも知らないこともたくさんあるので、40歳を境に分けるのに違和感がある。  
⇒再考する。

## 第2章

- ・【第2章全般】7つのまちづくりの主要な課題との関連性が見えない。  
⇒第2章に限らず、7つのまちづくりの主要な課題との関係性を整理し、修正する。
- ・【第2章全般】教育の関連計画として「第2期伊勢市教育振興基本計画」があるが、その内容がそのまま、第3次総合計画（案）に反映されているので、総合計画策定の中で整理を進めてきた「7つのまちづくりの主要課題」との関連付けは難しい。教育振興基本計画もしっかりと作られているが、基本理念「郷土を愛し、夢と意欲を持ち未来を切り拓く人づくり」については、総合計画の学校教育では、「心豊かでたくましい子どもたちが育つ教育環境づくりを進めます」とあり、合致しない。  
⇒教育の「第2章」の目指す姿として同じく基本理念と合致するような形となっている。教育振興基本計画との関係は調整する。
- ・【第1節】教育振興基本計画の社会参画力の育成の個所に「将来伊勢のために活躍したいという思いを抱くようにするため」（p14）とあり、郷土教育の推進の個所には「地域の一員として、地域を担い、発展させようとする態度を培っていく」（p20）とある。これと本計画とは一致しており、さらに推し進める形で整合性を図ってほしい。
- ・【第2節】重点課題の成果指標で「読書をする子どもの割合」を挙げているが、学年があがると本を読まなくなるのか。  
⇒学年があがると部活等もあり、減少が見られる。
- ・【第3節】重点課題の成果指標「市が主催するスポーツ大会」とあるが、大会などを増やすのか。  
⇒この指標は、お伊勢さんマラソン、市民ウォーク、市民スポーツフェスティバルの合計。お伊勢さんマラソンなどは、物理的に大会規模を大きくすることは難しく、今後市民に参加いただけるスポーツ大会を新たに企画することで増やしていきたい。
- ・【第4節】重点課題の成果指標について、有形・無形の文化財の数を増やしたら文化度があがるのか。まちづくりの基本理念で、「地域の誇りをつなぐまち～神宮ゆかりの地～」としているなかで、神宮のことが一切触れられていないように思う。例えば、神宮に関連する行事にどれだけ参加したのかなどあると思う。再考をお願いしたい。  
⇒有形・無形の文化に対して法的な位置付けをすることで価値を高め、市民に広く理解してもらうことができ、一層の興味関心を高めることが文化力を高めることにつながることからこの指標を設定したが、再考する。

- ・【第4節】神宮にゆかりのあるものがないと、他のまちと同じである。
- ・【第3節】スポーツはそもそも第2章の「教育」なのか。  
⇒「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」でスポーツ、文化財の保護は教育委員会の職務権限としているので、第2章の「教育」で位置づけている。
- ・【第2章全般】人口減少が進み、学校が減っていくことが予想される中で、それを何とか食い止めようとするのが、この会議だと思う。その気概が感じられない。これを見ていても夢が沸いてこない。

#### 第4章

- ・【第4章全般】どうしても国、県の施策によるところが大きいので独自色を打ち出すことが難しい。大体内容は網羅されているが、若い人をつなぎとめるためにも独自色を出してほしい。
- ・【第4節】重点課題の成果指標を見ると、「子育て支援センター利用者数」とあるが、人口減少は進むが、H30は減り、H33に2000人も増える目標が適正なのか。
- ・【第5節】「平成30年4月から伊勢地区医師会で医療と介護の連携拠点の取組が始まる」とあるが、在宅医療と介護の連携拠点の誤りである。
- ・【第1節】重点課題の成果指標を見ると、「病院の紹介率」とあるが、「地域医療支援病院の設置基準」とは何か。逆紹介率は挙げなくてよいのか。  
⇒設置基準には大きく分けて「①紹介率80%以上、②紹介率65%以上、逆紹介率40%以上、③紹介率50%以上、逆紹介率70%以上」の3パターンあり、伊勢病院は③にあたる。医療の今後の方向を考え、地域連携が必要な中で、特に紹介率をあげたいので指標を設定した。逆紹介率をあげるかどうかは検討したい。
- ・【第4章全般】「まちづくりの主要な課題」の「自然災害への備え」との関係性の中で、「第2節 地域福祉」「第4節 子育て支援」は連携しなくて良いのか。また「第3節 共生」、「第5節 高齢者福祉」は関連する施策に挙げられているのに記載が無い。

#### 第5章

- ・【第5章全般】「第4節 交通安全」は課題を詳細に分け、個別事業を挙げているが、「第3節 消防・救急」では課題を大きく捉え、課題解決の方向性の記載のボリュームが多く、第5章の中で記載の温度差がある。
- ・【第1節】2035年に予想される南海トラフ地震が、プラスマイナス10年とすれば最短あと10年も無いなかで、「非常持出品や災害時備蓄品の準備」といったソフト的な目標でいいのか。最大規模の被害を想定すると、市内はかなり浸水すると想定される中で、非常持出袋を持っていても助からない。ソフトの事業がダメというわけではないが、切羽詰ってきた中で、例えば、津波から確実に避難ができる人口の割合、避難行動をとっても間に合わない人の削減の状況、耐震化率など具体的に命を守る指標を

設定した方が良いのではないか。

- ・【第2節】目指す4年後の数値指標「犯罪件数を減らす」については良いと思うが、地域安全講習会及び青色防犯パトロールの実施がどれだけ結びつくのか疑問である。
- ・【第3節】「消防・救急」の目指す姿の指標が、市民の感覚であるのは違和感がある。市民感覚は、ネガティブな報道があれば、市民感情は大きく変わり、実際とは違うのではないかと思う。消防であれば火災が発生した場合の現地への到着時間、火災が起ったときの被害の減少を表す指標や、救急であれば、「救命の連鎖（リレー）」が大事ということであれば、救急車が出動した件数のうち実際の重症化の割合など、様々な指標があると思う。
- ・【第1節】先日台風21号による浸水があったが、40年以上前の七夕豪雨と同じようなことがまた起きた。そのための対策などを取組に入れるべき。勢田川の排水機場などハードはできているのに、それがうまく活用できていないように感じる。  
⇒ポンプ場については、完成しているところと暫定的なところがあるが、今回は、非常に短時間で降った雨量が大きく、ポンプはフルに稼働していたものの、追いつかなかったのが実状である。まだ未整備の箇所については、市はもちろん、国・県と話を進めているところである。
- ・【第5章全般】第5章の関連計画を見ると「国民保護計画」「危機管理計画」とあるが、第1節から第4節の中で反映されていないので、ご検討いただきたい。

#### ○今後について

- ・次回以降の予定については、日程調整をさせていただいたが、本日いただいた意見を受け、資料の作成等のスケジュールを再度調整し、改めて連絡する。